



ひしのみ

山形市立明治小学校
学校だより
R4.3.9発行
第19号
校長 横山 聡

地域の方々に支えられて…

サケの稚魚放流

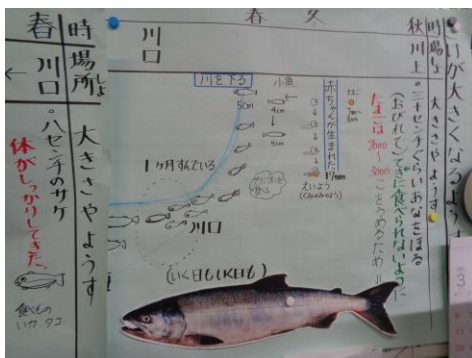
2月28日(月)にユビキタスな癒しの川づくり委員会(室岡和夫委員長)主催で、2年生がサケの稚魚放流を体験しました。



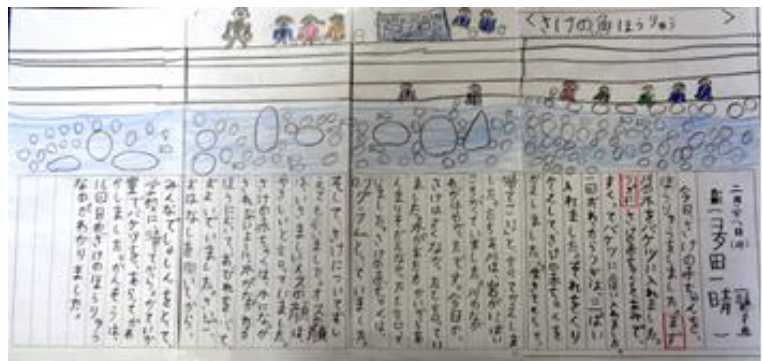
昨秋、2年生は立谷川に戻ってきたサケの映像を見て、「立谷川にサケがやってくるんだ。なぜサケは、同じ川に戻ってくるんだろう。」「サケってどんな魚なんだろう。」と疑問を持ち、予定されていた稚魚放流をとっても楽しみにしていました。また、その疑問を解決しようと、説明文「サケが大きくなるまで」を教材にしてサケの成長について学習をしてきました。

大雪のために立谷川の岸辺は雪に埋もれていましたが、当日は委員会の方々が歩きやすいように除雪してくださっていました。また、感染予防のために子ども達と距離をとって活動のサポートをしてくださりました。子ども達は、準備していただいた5センチほどのサケの稚魚を網ですくってバケツに入れ、「元気でね〜。」「また帰ってきてね〜。」と声をかけながら静かに川へ放流しました。

放流体験が心に強く残ったようで、学校に戻り子ども達は活動の感想を一気に書き上げました。「稚魚はオスが多くて、オスとメスは、6:4か7:3ぐらいだそうです。」「一匹が0.6グラムくらいとわかりました。」「オスは、いさましい顔でメスはやさしい顔だと言っていました。」「放流された稚魚は、立谷川に一週間ぐらいくらしているのがわかりました。」「サケの赤ちゃんは、鳥やさめに食べられてしまって、少なくなってしまうのがわかりました。」「よく見てみると、背中が茶色で黒い点々がついていました。」など分かったことや、「おわかれするのは、さびしかったけど、きっと帰ってくると信じています。」など稚魚への思いを綴っていました。



教室に掲示している学習のあしあと



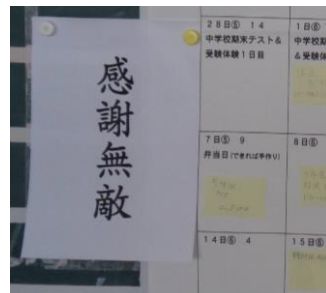
学校に戻ってきた書いた感想
たくさん書きたくて、4枚用紙をつなぎました

明治小学校同窓会入会式

3月3日（木）に6年生の同窓会入会式を行いました。16名が新会員として入会し、明治小学校同窓生は3003名となりました。感染予防対策として、外部の方をお招きすることができないため、佐藤恒同窓会長から次のようなメッセージをいただき、私が代読しました。

「明治小学校創立130周年という記念の年に卒業される皆さんおめでとうございます。そして同窓会入会おめでとうございます。（中略）先には幾多の困難が待ち受けていると思います。自分を見失うことなく楽しかった小学校での先生方との学校生活、家族や関わってくれた方々を思い出し乗り越え、オンリーワンの社会人・大人になり、可能であれば明治地区に貢献していただければ幸いです。また、たまには、故郷の山河に接したり、離れたら思い出したりする事も力になることと思います。最後に皆さんに『感謝無敵』の言葉を添えて同窓会入会式のあいさつとさせていただきます。」

感謝の気持ちは、生きるエネルギーになります。卒業を控えた6年生にふさわしい言葉をいただきました。



卒業までの日程表の脇に「感謝無敵」を掲示しました。

愛の鈴贈呈式



同じく3月3日（木）、明治地区更生保護女性会からいただいた「愛の鈴」を6年生に贈呈しました。数日前に理事の東海林園子様がメッセージとともにお届けくださいました。更生保護女性会はボランティアで活動している団体で、今年度は8名の方が明治コミセンに集まって、「愛の鈴」を作ってくださいました。卒業は大きな節目。両親や関わってくださった方々の愛情を再確認するまたとない機会です。6年生はいただいた鈴を大事そうに握っていました。更生保護女性会の皆様の思いがしっかりと届いたようです。



鈴の音によせて

六年間 よくがんばってよいよ卒業ですね。

おめでとうございます。

みんなの愛につつまれてここまで成長しました。

親の愛は 山より高く 海より深く… そして先生の愛もー。

いつまでも みなさんのことを見守って下さることでしょ。

心が弱くなった時、淋しくなった時

この鈴の音がきっと強さを やさしさをあたえてくれることでしょ。

こんな祈りをこめて作りました。

宮沢賢治の絵本 今年度もいただきました

昨年度に引き続き東海林聡様より、宮沢賢治の絵本を寄贈していただきました（昨年度と合わせて35冊）。宮沢賢治の作品は、世代を越えて読者を惹きつけます。また、6年生の国語で「宮沢賢治の作品の世界をとらえる」という学習があり、いただいた絵本が子ども達の貴重な教材となっています。ありがとうございます。

